

情報量規準と統計的仮説検定

モデリング研究系
石黒真木夫

1 はじめに

統計相談などの場で、情報量規準を用いた解析法を紹介する機会が多々ある。相談者の希望に沿った方法を提案できることも多い。そこまでやれば統計数理研究所所属の研究者の仕事としては十分であると考えてきたが、最近、それだけでは済まないのではないかと思いはじめた。

相談者が「統計的解析結果の最終利用者」ではない場合が多いのである。最終利用者であれば、解析方法について理解し、結果が直観に合うものであれば、そのまま解析結果を利用してくれるが、解析結果を第三者、たとえば雑誌編集者に売り込まなくてはならない立場の人たちがいる。その人達には、解析法を伝授するだけでなく、解析法を第三者に売り込む方法も伝授する必要があると考えはじめたのである。

今回の発表で以下の諸点について考えてみたい。

2 統計的解析を必要とする問題とは

3 情報量規準でできること

4 統計的仮説検定でできること

5 統計数理研究所でできること

